

令和3年9月30日

教職員、学生の皆様

新型コロナウイルスによる感染症に対する愛媛大学の対応
ーこれまで1年半の対応と、コロナウイルスとの共存に向けた新たな対応へー

学長（危機対策本部長） 仁科弘重

1. これまで1年半の対応

世界は、これまで約1年半にわたって、新型コロナウイルスによる感染症と戦ってきました。愛媛大学でもほぼ同様に、令和元年度の卒業式・修了式が中止になった頃から、新型コロナウイルスによる感染症への本格的な対応が始まりました。

その頃、「新型コロナウイルスによる感染症というものがどのようなものか？」まだわからなかったので、「本学の教職員、学生に感染者が出た時は、保健所が来て、その人が接触した可能性がある物品などを消毒し、当該建物はしばらくロックアウトされる」との情報も流れていました。そのような状況下で、本学も初めての経験となる「世界的パンデミック」である新型コロナウイルスによる感染症への基本的対応方針が検討され、「活動を制限して、感染を防止する」という視点に立った対応を取ることとなり、その考えに沿ったBCP（Business Continuity Planning：事業継続計画）の表が作成されました。

その後、私たちは、1年半にわたって、(1)アルファ株、デルタ株などの変異株の出現、(2)夏休みや年末年始における人流の増大による感染者数の増加、(3)さまざまに考えられた感染形態（接触感染、飛沫感染、エアロゾル感染、空気感染など）、(4)マスク着用や換気の確保による感染リスク低減、(5)ワクチンの効果などなど、多くのことを学んできました。この間、愛媛大学では、附属病院を始め多くの関係者のご協力によって、「ワクチンの職域接種」も実施しました。そして、この1年半、本学は、感染防止のため、大学の基本的活動（授業、研究、学生の部活動、ステークホルダーとの会合、会議、出張など）に対しても制限を掛けてきました。

この基本的活動への制限によって、本学の累計感染確認者は、本日現在、学生30人、教職員4人であり、感染者が多い松山市にメインキャンパスがある大学としては、感染者をかなり抑えることができました。このことについては、教職員、学生の皆様のご努力に対して、学長（危機対策本部長）として心から御礼申し上げます。

2. コロナウイルスとの共存に向けた新たな対応へ

さて、現在、世界的にみても、わが国をみても、新型コロナウイルスによる感染症への対応の過渡期にあります。すなわち、ワクチン2回接種済み者の割合が7割に近づきつつあり、ブレイクスルー感染といわれる「2回接種済み者の感染」もありますが、重症者の減少など、少し明るい見通しが持てるようになってきました。わが国でも、「ワクチンパスポート」という考え方の議論が始まっており、ワクチン接種またはPCR検査によって、コロナ前の日常をできるだけ取り戻すための動きが始まっています。要するに、With コロナ、「コロナウイルスとの共存」です。

このような状況を鑑み、本学では、危機対策本部会議での議論の結果、新型コロナウイルスによる感染症に対する基本的対応方針を変更することとしました。これまでの「活動を制限して、感染を防止する」という視点から、「できるだけ日常に近い活動を行いつつ、感染を防止する」という視点に変更します。今週、学生代表者とも意見交換し、このような変更を検討していることはお伝えしました。BCPも、本来、事業継続計画であることを考え、本学のBCP表も至急再策定します。ただし、「できるだけ、日常に近い活動を行う」ためには、残念ながらまだ無条件ではなく、十分な感染防止策も求めるBCP表になると思います。いずれにしても、前向きな姿勢で、前向きな視点で、大学としての日常の活動をできるだけ取り戻していきたいと考えています。新たなBCP表は、再策定次第、ご連絡します。

今後、新型コロナウイルスによる感染拡大が再び無いとは言い切れませんが、少し明るい見通しを持てるこのタイミングで、新たな方針に切り替え、日常を取り戻していきたいと思います。教職員、学生の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。